

仕入単価においてわずかに改善の兆しが見られる。

山口商工会議所では、管内中小企業100社を対象に景況調査を実施し、このほど令和6年10月～令和6年12月期実績と令和7年1月～令和7年3月期見通しについての調査結果（回答数83社、回答率83%）をとりまとめた。本調査は、3ヶ月毎に年4回行っている。

全業種のDI値に見る業況判断動向を前期と比較すると、前期の▲12%から▲28%とマイナス幅が増加した。業種別にみると、全業種においてマイナスで推移しており、中でも小売業が▲8%から▲36%と大幅に低下している。売上、経常利益についてもマイナスで推移しており、特に小売業の経常利益が▲21%から▲48%と大幅に低下した。仕入単価については全業種で前回と比べて低下しているが、経営上の問題点としては未だ原材料や仕入単価の上昇が上位に入っている。

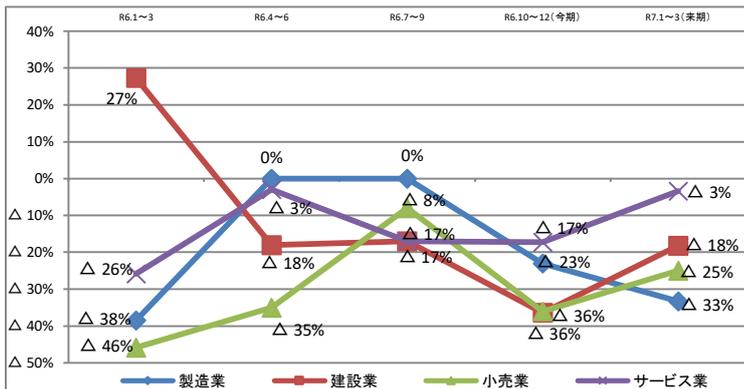
新規設備投資について、今期中に設備投資を実施した企業は全体の18%、来期設備投資を実施予定の企業は11%であった。前年同期と同じ結果となった。

経営上の問題点については、製造業において令和4年7～9月期ぶりに生産設備の不足・老朽化が上位に上がっている。

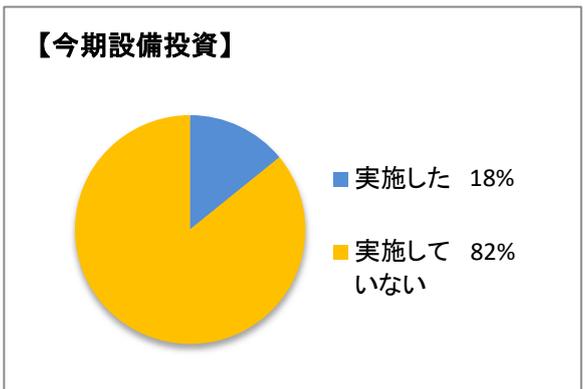
◆業況DI値（今期の状況）

	業況判断	前回調査比	売上	前回調査比	資金繰り	前回調査比	仕入単価	前回調査比	経常利益	前回調査比	従業員数	前回調査比
全産業	△ 28%	→	△ 22%	→	△ 14%	↗	59%	→	△ 32%	→	△ 7%	↗
製造業	△ 23%	→	△ 36%	→	△ 23%	→	69%	→	△ 21%	→	△ 8%	↗
建設業	△ 36%	→	△ 9%	↗	△ 9%	↗	55%	→	△ 27%	↗	△ 9%	→
小売業	△ 36%	→	△ 36%	→	△ 29%	→	60%	→	△ 48%	→	△ 19%	→
サービス業	△ 17%	→	△ 3%	→	4%	↗	52%	→	△ 24%	→	4%	↗

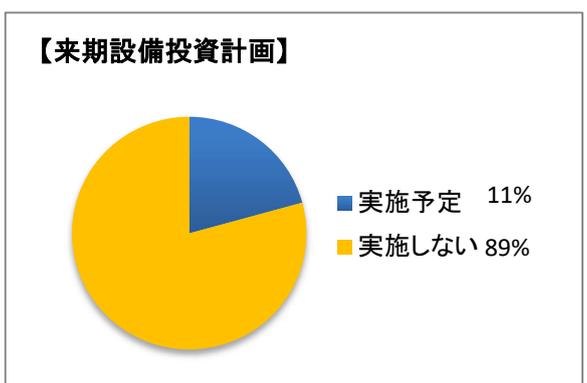
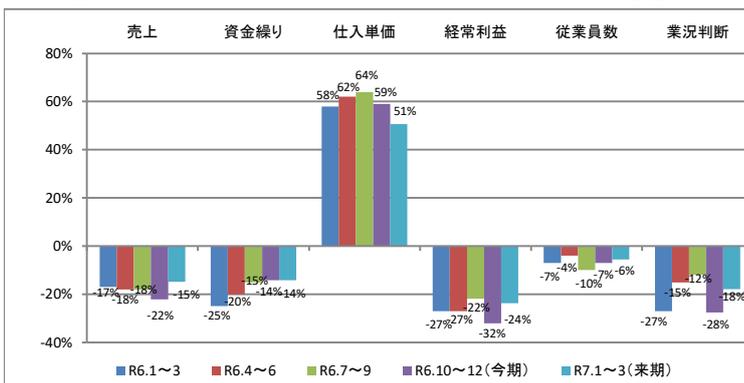
◆産業別業況判断DI（前3期からの推移と来期見通し）



◆新規設備投資（今期実施・来期計画）



◆全産業DI項目別比較（前3期からの推移と来期見通し）



◆経営上の問題点

	製造業		建設業		小売業		サービス業	
1位	原材料価格の上昇	37.1%	官公需要の停滞	21.4%	仕入単価の上昇	25.4%	人件費の増加	17.5%
2位	生産設備の不足・老朽化	11.4%	熟練技術者の確保難	17.9%	需要の停滞	15.9%	利用者ニーズの変化への対応	11.3%
3位	需要の停滞	11.4%	材料価格の上昇	10.7%	消費者ニーズの変化への対応	12.7%	新規参入業者の増加	10.0%

※DIとは、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目についての増加（好転）企業割合から減少（悪化）企業割合を差し引いた値を示す。